

(証券コード 7702)

株式会社 ジェイ・エム・エス

2026年3月期 第2四半期 連結決算の概要

2025年11月7日

連結：減収減益

売上高 32,216百万円(△ 1,614百万円)
営業利益 △ 19百万円(△ 174百万円)

- 売 上： 国内ではがん治療領域や栄養領域が伸長したものの、海外では血液・細胞領域の受注が顧客の在庫調整による影響で減少し減収
- 利 益： 海外主力製品の減収により営業損失

システム別売上高

- 血液・細胞： 欧州向け成分献血用回路が増加したものの、北米向け成分献血用回路やアフリカ及びアジア向け血液バッグが減少
- 透 析： 中国向け血液透析事業に係る販売が減少したものの、北米及び欧州向けA V F針（血液透析用針）が堅調に推移し微増

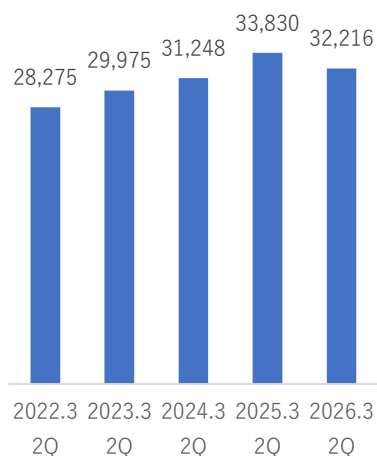
地域別売上高

- 北 米： A V F 針が好調に推移したものの、海外主力製品である成分献血用回路が減少
- ヨーロッパ： A V F 針や血液バッグが堅調に推移し増加

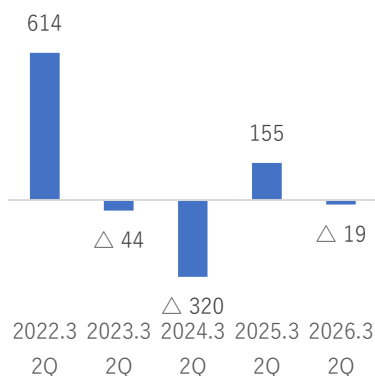
(単位：百万円)

	2025年 3月期 2Q	2026年3月期 2Q		対前期 増減額	対前期 増減率
		公表予想	実績		
売上高	33,830	33,800	32,216	△ 1,614	△ 4.8%
営業利益	155	350	△ 19	△ 174	—
経常利益	△ 118	300	△ 46	71	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 258	100	△ 190	67	—

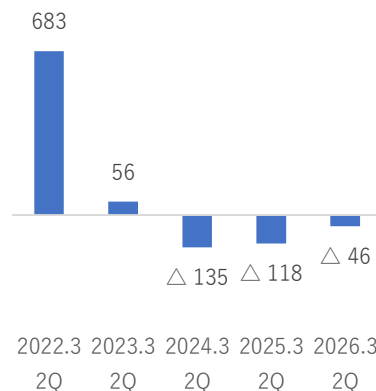
売上高



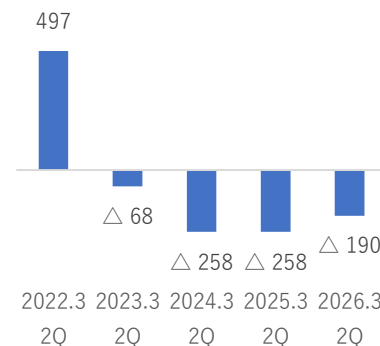
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する
四半期純利益



セグメント業績（拠点別、経常利益ベース）

日本：	薬剤調製・投与クローズドシステム及び摂食嚥下関連用品は継続伸長したものの、中国向け血液透析事業に係る販売や急性血液浄化製品等が減少 価格転嫁や不採算品目の整理を進めるも、労務費や修繕費などの増加に加え販売費が増加したため減益
シンガポール：	成分献血用回路は、欧州向けは堅調に推移したが、北米向けは顧客の在庫調整による影響で受注減少 為替差損の影響は軽微に収まり損失改善

（単位：百万円）

		2025年 3月期 2Q	2026年 3月期 2Q	増減額	増減率
日本	売上高	22,253	21,925	△ 328	△ 1.5%
	利益	426	301	△ 125	△ 29.4%
シンガポール※	売上高	12,891	11,748	△ 1,143	△ 8.9%
	利益	△ 418	△ 183	234	—
中国	売上高	1,956	2,064	107	5.5%
	利益	△ 80	86	167	—
フィリピン	売上高	1,825	1,648	△ 177	△ 9.7%
	利益	△ 144	△ 311	△ 167	—
ドイツ	売上高	2,041	2,088	47	2.3%
	利益	195	253	58	30.1%
その他※	売上高	2,427	2,911	484	19.9%
	利益	△ 50	△ 85	△ 34	—

※シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

※その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイ、中国の一部の現地法人の事業活動を含んでいます。

(単位：百万円)

輸液・栄養領域

11,896 11,829
■ 2025.3 2Q ■ 2026.3 2Q



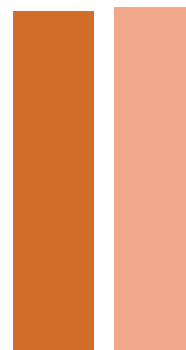
売上高

薬剤調製・投与クローズドシステム及び摂食嚥下関連用品が伸長したものの、医療用手袋が減少し微減



透析領域

10,343 10,457
■ 2025.3 2Q ■ 2026.3 2Q



売上高

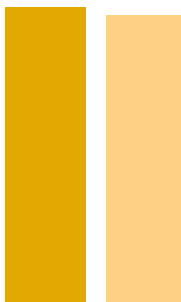
中国向け血液透析事業に係る販売が減少したものの、北米向け及び欧州向けA V F 針が堅調に推移し微増



外科治療領域

■ 2025.3 2Q ■ 2026.3 2Q

2,621 2,549



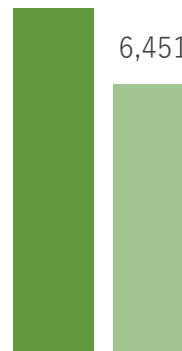
売上高

需要減退に伴い急性血液浄化装置や人工心肺回路が減少



血液・細胞領域

8,262 6,451
■ 2025.3 2Q ■ 2026.3 2Q



売上高

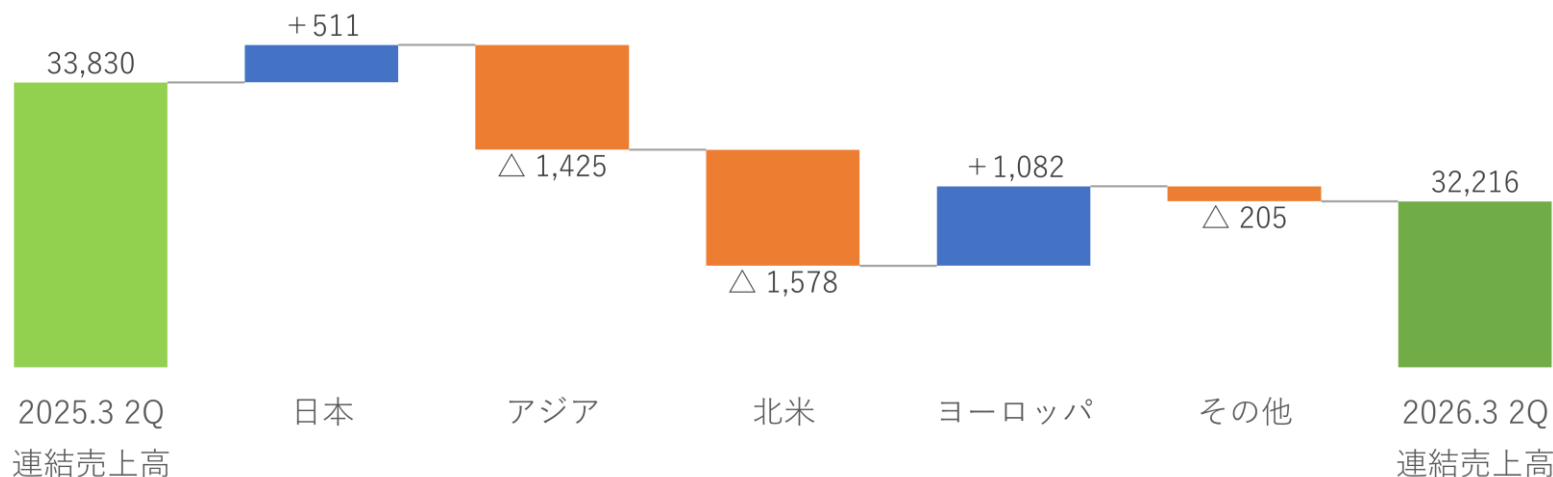
北米向け成分献血用回路やアフリカ及びアジア向け血液バッグが減少



ヨーロッパではA V F 針が好調に推移し増収、日本国内においても、薬剤調製・投与クローズドシステムや摂食嚥下関連用品も堅調に推移したものの、中国向け血液透析事業に係る販売が減少したことに加え、北米向け成分献血用回路が減少し減収

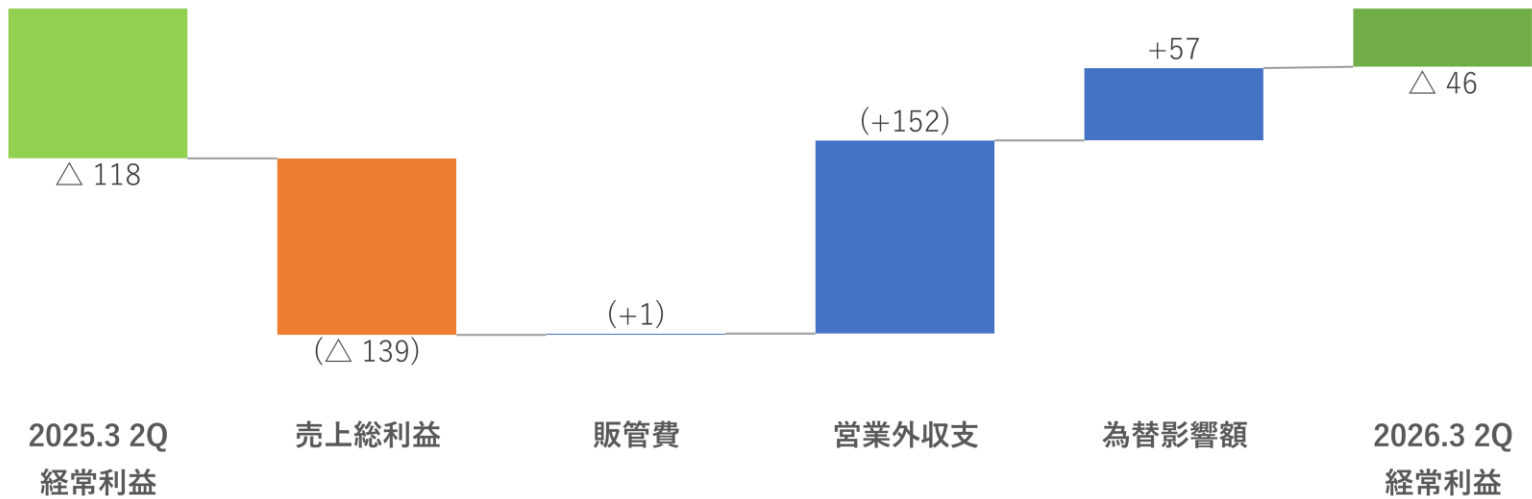
(単位：百万円)

	2025年 3月期 2Q	2026年 3月期 2Q	増減額	増減率	売上高 構成比
日本	19,141	19,653	511	2.7%	61.0%
アジア	6,325	4,900	△ 1,425	△ 22.5%	15.2%
北米	3,885	2,307	△ 1,578	△ 40.6%	7.2%
ヨーロッパ	3,232	4,315	1,082	33.5%	13.4%
その他	1,245	1,039	△ 205	△ 16.5%	3.2%



海外主力製品である成分献血用回路や血液バッグの減収に伴う売上総利益の減少が大きく影響
持分法による投資利益に加え為替差損の影響が軽減し改善

(単位：百万円)
※ () は為替の影響を除く



為替レート (期中平均)

	米ドル	ユーロ	シンガポールドル
2025年 3月期 2Q	152.63 円	164.60 円	114.16 円
2026年 3月期 2Q	146.04 円	162.15 円	113.00 円

当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえ、前回公表した2026年3月期の通期連結業績予想を修正しました。

(単位：百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期		対前期 増減率
		前回予想	今回予想	
売上高	69,749	68,000	66,000	△5.4%
営業利益	872	900	500	△42.7%
経常利益	514	600	300	△41.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	89	200	100	11.7%

※業績予想の修正にあたっては、前提となる為替レートを、
1米ドル=153円、1ユーロ=177円、1シンガポールドル=118円 としております。

-
- 売上：** 海外主力製品である成分献血用回路や中国向け血液透析装置の減少により減収を見込むものの、国内のがん治療領域や栄養領域の継続的な成長により下期の回復を図る
- 利益：** 海外主力製品の減収影響が大きく、販売費の増加も加わり厳しい収益環境が続くが、コスト削減や事業効率化の推進により収益改善を図る
-



人と医療のあいだに…

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。